

Economic Indicators

発表日: 2023年11月8日(水)

景気動向指数(2023年9月)

～基調判断は「改善」維持も、回復感に欠ける動き～

第一生命経済研究所

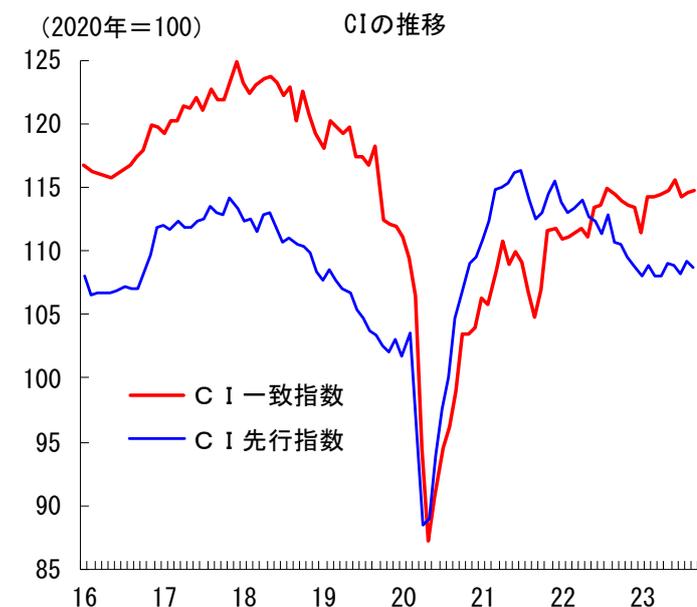
シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

足踏み状態が続く

内閣府から公表された2023年9月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.1ポイントとなった。内訳では、投資財出荷指数や小売業販売額などがマイナス寄与の一方、輸出数量指数が押し上げ要因となり、C I全体では僅かにプラスになった。

C I一致指数は8月の前月差+0.4ポイントに続いての上昇だが、6月の落ち込み分(前月差▲1.4ポイント)を取り戻せておらず、上昇基調にあるとは言えない。昨年秋以降、均してみれば概ね横ばいでの足踏みが続いているとの評価で良いだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

先行きも回復感に欠ける動きが継続する公算大

C I一致指数の基調判断は、6ヶ月連続で「改善」となった。C I一致指数の3ヶ月移動平均前月差は▲0.30と3ヶ月連続でマイナスとなっているが、「足踏み」への下方修正基準である「3か月後方移動平均(前月差)の符号がマイナスに変化し、マイナス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上」かつ「当月の前月差の符号がマイナス」は満たしていない。

先行きについては、C I一致指数は回復感に欠ける動きが続く可能性が高いとみている。C I一致指数と関連が深い鉱工業指数をみると、10月の製造工業生産予測指数で前月比+3.9%と高い伸びが見込まれているが、予測指数の上振れバイアスを除去した経済産業省による補正值は前月比+1.1%にとどまる。11月の予測指数が前月比でマイナスとなっていることも併せて考えると、均してみれば横ばい圏内とみて良いだろう。足元でIT関連財の在庫調整が進捗しているといった好材料はあるものの、海外経済の減速が先行き見込まれるなか、輸出は伸び悩むことが予想され、生産活動に力強さが出てくる展開は見込み難い。また、物価高の悪影響もあって個人消費に力強さが出ないことも懸念材料だ。C I一致指数も当面、一進一退の足踏み状態が続く可能性が高いだろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

